

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 室内騒音レベル				3.1	0.15	-	-	3.1
1.2 遮音				3.0	0.40	3.0	-	3.6
1 開口部遮音性能				3.3	0.40	-	-	
2 界壁遮音性能		Dr-40の乾式間仕切り壁採用、他RC壁		3.0	0.30	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				4.0	0.30	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	0.20	3.0	-	
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	-	
2 溫熱環境				3.0	0.35	-	-	3.0
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-	
1 室温				3.0	0.60	3.0	-	
2 外皮性能				3.0	0.40	3.0	-	
3 ゾーン別制御性				3.0	-	-	-	
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境				4.3	0.25	-	-	4.3
3.1 昼光利用				4.2	0.30	-	-	
1 昼光率		バルコニーに面して窓設置 W6.7程度		5.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口				3.0	-	3.0	-	
3 昼光利用設備				4.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策				4.0	0.30	-	-	
1 昼光制御		カーテンと庇(バルコニー設置)で制御		4.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度		500lx以上で計画		4.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御		昼光センサー、照明点灯制御及び一部自動調光		5.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境				4.3	0.25	-	-	4.3
4.1 発生源対策				5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		全てF☆☆☆☆建材、ホルムアルデヒド以外にも配慮		5.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気				3.3	0.30	-	-	
1 換気量				3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能		バルコニーを設け開口部を広く確保 開口面積1/11程度		4.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理				4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		学校施設で全館禁煙運用		5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.4
1 機能性				3.5	0.40	-	-	3.5
1.1 機能性・使いやすさ				4.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性				3.0	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	3.0	-	
3 パリアフリー計画		建築物移動等円滑化基準(最低限のレベル)を満たす		4.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				3.5	0.30	-	-	
1 広さ感・景観				3.0	0.50	3.0	-	
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	
3 内装計画		木質系内装やメディアセンターの照明計画		4.0	0.50	1.0	-	
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.2	0.30	-	-	3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.6	0.30	-	-	
1 艦体材料の耐用年数				3.0	0.22	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.22	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		木質フローリング、床塗装シート		5.0	0.11	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		塩ビラミング鋼管、硬質塗装管かつEは無し		5.0	0.22	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		20年以上		4.0	0.22	-	-	
2.4 信頼性				3.4	0.20	-	-	
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		節水型器具、雨水利用システム、受水槽に非常用給水栓設置等		5.0	0.20	-	-	
3 電気設備				3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性		3.5	0.30	-	-	3.5
	3.1 空間のゆとり	各階階高3.9m、一部4.25m 内部耐力壁は少ない計画とする	4.0	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり		4.0	0.60	3.0	-	
	2 空間の形状・自由さ		4.0	0.40	3.0	-	
	3.2 荷重のゆとり	普通教室2,900N/m ² にて計画	4.0	0.30	3.0	-	
	3.3 設備の更新性		2.8	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性	-	2.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	3.0	-	-	3.7
	1 生物環境の保全と創出	-	3.0	0.30	-	-	3.0
	2 まちなみ・景観への配慮	圧迫感を与えないデザイン、緑化帯整備、正門からの良好な景観	4.0	0.40	-	-	4.0
	3 地域性・アメニティへの配慮		4.0	0.30	-	-	4.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	歩道上空地設置、学校内に地域スペース確保、中庭・テラス	4.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率59.8% ピロティなど324m ² 程度確保	4.0	0.50	-	-	
	建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.7
LR1	エネルギー		-	0.40	-	-	3.8
	1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI値0.74 外壁・屋根断熱、low-e複層ガラス採用	5.0	0.20	-	-	5.0
	2 自然エネルギー利用	-	2.0	0.10	-	-	2.0
	3 設備システムの高効率化	ZEBready BEI値 0.49 省エネ空調機器採用	4.0	0.50	-	-	4.0
	集合住宅以外の評価		4.0	1.00	-	-	
	集合住宅の評価		3.0	0.20	-	-	3.0
	4 効率的運用		3.0	1.00	-	-	
LR2	資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.8
	1 水資源保護		3.8	0.20	-	-	3.8
	1.1 節水	主要水栓の過半に節水コマを使用、節水型便器を使用	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.7	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	トイレ洗浄水に雨水利用	4.0	0.70	-	-	
	2 雜排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
	2 非再生性資源の使用量削減		3.8	0.60	-	-	3.8
LR3	2.1 材料使用量の削減	-	3.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	路盤の再生材、再生木ウッドデッキ床材、ビニル床材	5.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	3.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	内装は乾式工法を採用	5.0	0.20	-	-	
	3 汚染物質含有材料の使用回避		4.0	0.20	-	-	4.0
LR3	3.1 有害物質を含まない材料の使用	ビニル床シート(東リ)用接着剤 非該当	4.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		4.0	0.70	-	-	
	1 消火剤	-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	ノンフロン製品 GWP=1	5.0	0.50	-	-	
	3 冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
	敷地外環境		-	0.30	-	-	3.5
	1 地球温暖化への配慮	-	4.0	0.33	-	-	4.0
2	2 地域環境への配慮		3.5	0.33	-	-	3.5
	2.1 大気汚染防止	-	3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	緑地を多く計画し、熱的な影響が低減するように配慮	4.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	雨水再利用システムの導入	4.0	0.25	-	-	
	2 污水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3	4 廃棄物処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.1	0.33	-	-	3.1
	1 騒音	-	3.0	0.40	-	-	
	2 振動	-	3.0	1.00	-	-	
	3 悪臭	-	-	-	-	-	
	3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.75	-	-	
LR3	2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3.3 光害の抑制	屋外照明(外灯)を適切に配置、学校のため広告物は無し	3.7	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び室内照明のうち外に漏れる光への対策	-	4.0	0.70	-	-	
	2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画															
1.3.1 維持管理に配慮した設計	3.0	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	○	-	○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	3.0	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	○
2.4.1 空調・換気設備	5.0	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	○	○	-	○
2.4.2 給排水・衛生設備	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	4.0	4.0	○	○	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 敷地内環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	8.0	-	-	3.0	2.0	-	-	1.0	-	1.0	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	4.0	2.0	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	4.0	-	-	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	12.0	-	1.0	3.0	3.0	-	2.0	1.0	2.0	-	-	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雜排水等再利用システム導入の有無			○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 軟体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	14.0	1.0	-	-	3.0	3.0	2.0	1.0	3.0	1.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標**Q1 室内環境**

2.1.3 外皮性能

3.1.1 昼光率	窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η)	-	外壁	-	床	-	
4.2.2 自然換気性能	U値(W/m ² K)	窓システム	屋根	-	外壁	-	床	-	
Q2 サービス性能	住戸部分	窓システムU値	-	外皮UA値	-	η AC	-	η AH	-
1.1.1 広さ・収納性	自然換気有効開口面積率	4.2.1(普通教室)	9.4%						
1.1.2 高度情報通信設備対応	執務スペース	.0m ² /人	病床	.0m ² /床	シングル	.0m ² ツイン	.0m ²		
1.2.1 広さ感・景観	コンセント容量	0.0 VA/m ²							
1.2.2 リフレッシュスペース	天井高	2.7 m							
2.2.1 軟体材料の耐用年数	リフレッシュスペース	0.0%	レストスペース	0.0%					
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定耐用年数	40 年							
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔	15 年							
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔	20 年							
3.1.1 階高のゆとり	想定必要間隔	20 年							
3.1.2 空間の形状・自由さ	階高	3.9 m							
3.2 荷重のゆとり	壁長さ比率	20.0%							
Q3 敷地外環境(敷地内)	床荷重	2900 N/m ²							
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数	101%	建物緑化指数	28%					
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率	60%	水平投影面積率	42%	地表面対策面積率	74%	舗装面積率	40%	

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI _m	0.74	断熱等性能等級	対象外 相当				
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量	0 MJ/m ²	採光を満たす教室数	0.0%	採光を満たす住戸数	0.0%		
3 設備システムの高効率化			通風を満たす教室数	0.0%	通風を満たす住戸数	0.0%		
非住宅部分	太陽光	49.8kW	太陽熱等	.0kW	蓄電池	.0kW		
集合住宅の評価	BEI/BEI _m	再エネ有 0.49	無 0.49	オフサイト再エネ有	-	-		
LR2 資源・マテリアル	一次エネ削減率	再エネ有	無					

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善	雨水利用率	5.5%							
2.4 軟体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目	路盤材	エコマーク商品	ビニル床材、再生木材等					
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率	0.0%							
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)						
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	1					
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	-					
見付面積比	216%	隣棟間隔指標Rw 1.19							
地表面対策面積率	130.0%	屋根表面対策面積率	22.0%	外壁表面対策面積率	2.0%				
見付面積Sb	1.481m ²	卓越風向と直交する最大敷地幅Ws	101.01 m	基準高さHb	6.76 m				
緑地	1.844m ²	水面	m ²	保水性対策面	m ²	高反射対策面	m ²	再帰性反射対策面	m ²